モノトーンの物語 ―

グルジアのショート・ショート『ニコとヴァノ』

前田君江

イランを取り巻く国々

た影は、息をのむほどに黒く深い。ど眩しく、木々や建物が落とすくっきりし地の白は、まともに目を開けていられないほ刺すような激しさだ。太陽に直射された大刺すような激しさだ。太陽に直射された大

木々が点在するだけの、イラン中央部の沙 を含むようになる。田園風景が広がり、野 を含むようになる。田園風景が広がり、野 を含むようになる。田園風景が広がり、野 も山も緑に覆われる。カスピ海へと近づいていく さらにその向こうには、カフカス山系を背に さらにその向こうには、カフカス山系を背に して西の黒海に面した国がある。人口五○ ○万にも満たないコーカサスの小国グルジア である。

グルジアの色

たかのような黒の帆布生地。袖や背には、白装は、漆黒ではなく、水や風に洗われ色あせグルジアは、白と黒が美しい国だ。民族衣

はない。あくまで、ふたつの存在の合わせ鏡な黒。それは、善と悪、光と闇のコントラストで

穏やかな風景のなかに、溶け込んだ白と

る。数多の苦難を抱えつつも、昔ながらの が集まれば、自家醸造ワインの杯を重ね、地 ソ連崩壊による経済的・思想的空白は、今な にわかに信じ難い。二〇〇八年のロシアとの りとしていて、ひっそりとした たたずまいの グルジアは、最も古いキリスト教国のひとつで の地域で産出されるワインさながらの深紅の 産の料理とおしゃべり、歌を楽しむ 人々の生活は、豊かで穏やかだ。親族や友人 お社会の構造そのものに深い傷跡を残してい 士・民間人併せて四○○人余りが死亡した。 紛争(南オセチア紛争)では、グルジアの兵 また、大粛清者スターリンの故国であるとは 街だ。ここが旧ソ連の一共和国であったとは、 ある。首都のトビリシは、驚くほどこじんま 糸で十字架の刺繍模様があしらわれている。 ーズで飾られている。揃いの黒の帽子には、こ や赤、オレンジ、水色の色鮮やかな刺繍やビ

混じり、陽にさらされた色だ。
土の混じった乳色、あるいは、紺青の自然石がも姿を現す。白もまた、純白の白ではない。トビリシから少し郊外へ出かけると、白いトビリシから少し郊外へ出かけると、白い

は十五の物語だったが、本稿ではうち七作品のみとヴァノもまた、そんな二人である。(原典でのだ。『コとヴァノ』の十五の物語を演じるニコ

背中合わせのニコとヴァノ

を訳出した)。

ァノ。 黒のダンディズム、ニコ。白のダンディズム、ヴ

いの三つとヴァノ。とくに仲良しってわけでもない。いつもすれ違れったい。ふたりは顔見知りで旧知だけど、い。いまひとつ、ぱっとしなくて、どことなくじい。いまひとつ、ぱっとしなくて、どことなくじいの三つとヴァノ

こコとヴァノは、似たような背格好をしている。たいていは隣人同士で、たまには親友だったりもする。でも、あるときはこコが幼いヴァノを育て、あるときは青年こコが年老いたヴァノに金を借りている。あるとき、世にも不思議で世にも貴重な「青い瞳色のすみれ」というる年も「青い瞳色のすみれ!青い瞳色のすみれ!」と叫び続けた。その間に、ヴァノは、田畑を耕し、妻をめとり、ニコという名の二人の子ども、ヴァノという名の二人の子どもがでアンは、似たような背格好をしていこコとヴァノは、似たような背格好をしてい

背中合わせのニコとヴァノ。時の両側で、それぞれの時間の流れを生きる、ると、垣根には、青い瞳色のすみれが芽吹く。

るから」

だって自在にできる。じゃない。互いを愛したり奪ったり、殺すことじってとヴァノは、時間を自由に旅するだけ

あるとき、ニコとヴァノは珍しく親友だった。そして、ヴァノはひとりの女性を愛し、彼女と愛し合った記念のマッチの燃えさしを大切に持っていた。ふたりは親友だったから、ニコはやがて、ヴァノに蝋燭を求め、うになる。ニコはやがて、ヴァノに蝋燭を求め、すになる。ニコはやがて、ヴァノに蝋燭を求め、すになる。ニコはやがて、ヴァノに蝋燭を求め、質すとには、ただ、マッチの燃えさしだけでノのもとには、ただ、マッチの燃えさしだけで人のもとには、ただ、マッチの燃えさしだけで人のもとには、ただ、マッチの燃えさしたけで人間で

コが放った弾で撃ち落とされる。やない!」はずのヴァノは、空へと羽ばたき、二飛び立つのを待っていた。やがて、「鳥なんかじヴァノは鳥だ」と言い、銃を構えて、ヴァノがずたあるとき、ニコは、「俺は、ハンターだ。

「もうひとつの世界」の魔術師

『ニコとヴァノ』の作者エルロム・アフヴレディ

アニ(Erlom Akhvlediani, 一九三三〜二〇一二年三月)は、何よりもまず、映画脚本家として知られている。二〇〇四年ビターズ・エンドが映られている。二〇〇四年ビターズ・エンドが映画祭「イオセリアーニの作品を一挙公開した。同監督の初期作品『四月』(二〇〇二年カンヌ招同監督の初期作品『四月』(二〇〇二年カンヌ招同監督の初期作品『四月』(二〇〇二年カンヌ招のか本を手掛けたのが、アフヴレディアニだっの脚本を手掛けたのが、アフヴレディアニだった。そして、彼が書いた数少ない文学作品のた。そして、彼が書いた数少ない文学作品のた。そして、彼が書いた数少ない文学作品のた。そして、彼が書いた数少ない文学作品のとつが、『ニコとヴァノ』である。

原書は、文学書というより小冊子のようなラフな装丁で、表紙と裏表紙はピンク色。なラフな装丁で、表紙と裏表紙はピンク色。こじゃれた落書きみたいな挿絵が、あちらここじゃれた落書きみたいな挿絵が、あちらこはったり、二つの時間が同時進行したり、主体と客体がひっくりかえったり、名まえも存在と客体がひっくりかえったり、名まえも存在と客体がひっくりかえったり、名まえも存在と客体がひっくりかえったり、名まえも存在と客体がひっくりかえったり、名まえも存在と客体がひっくりかえったり、名まえも存在と客体がひっくりかえったり、名まえも存在と客体がひっくりかえったり、名まえも存在と客体がひっくりかえったり、名まえもでした。

有名脚本家アフヴレディアニのいわば習作として、長く読み継がれてきた『ニコとヴァノ』して、長く読み継がれてきた『ニコとヴァノ』とが、実は、思わぬところでも活躍している。外国人のグルジア語学習用定番テキストして、根強い人気を誇ってきたのだ。ルーツや語系根強い人気を誇ってきたのだ。ルーツや語系根強い人気を誇ってきたのだ。ルーツや語系根強い人気を誇ってきたのだ。ルーツや語系が迷に包まれた言語は世界に数多いが、グルジア文化への扉を開けたとき、「もうひとつの鬼術師が、さらなる深奥へとわれわせ界」への魔術師が、さらなる深奥へとわれわれを手招きしてくれる。

http://www.mi-te-press.net/essay/bn1206.html部を加筆修正した。)

